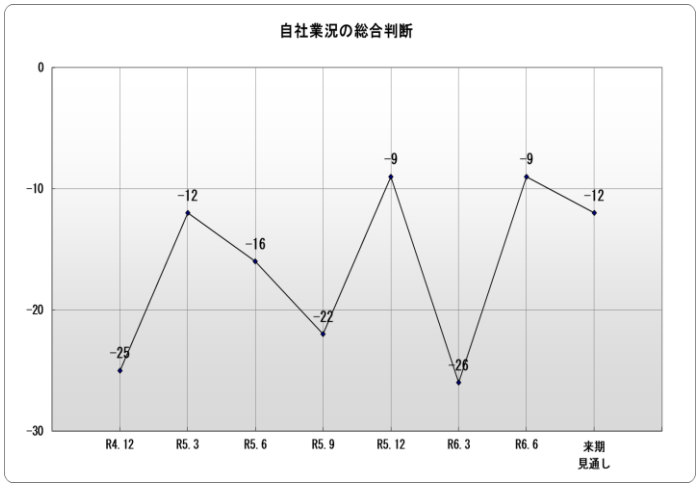
中小企業景況調査

下げ止まりの動きが見られるものの、強さに欠ける

調査対象期間：2024 年 4 月～6 月

中小企業景況調査は、市内４業種１００社の中小企業を対象に４半期ごとにＤＩ（ディフィージョン・インデックス）値を算出する景気動向調査です。項目別に、良いと答えた企業の割合から、悪いと答えた企業の割合を引いた数です。

今期の状況としては、生産・売上高が良化傾向をみせています。これは、「建設業」による売上の回復が大きな要因です。「製造業」、「卸・小売業」「サービス業」も若干の売上回復は見られますが、仕入価格の上昇が経営の悪化要因となっており依然として厳しい状況が続いています。



経営上の問題点として１番に挙げられている「原材料高」はどの業種においても共通の課題となっています。これは１ドル１６０円を超えるような歴史的円安との因果関係が考えられ、地方経済にとっては円安が経営の圧迫要因となっています。しかし、７月に行われた日銀の金融政策決定会合による金利引き上げをきっかけとした円高への動きは明るい材料となっており、来期については、原材料高が改善の兆しをみせると予想されています。

【経営上の問題点】
1．原材料高
2．受注・売上の不振
3．人件費負担増大
4．求人難
5．技能労働者不足

綾部の景況天気予報　（前年同期間と比較しての景況感）

全業種

	前期	今期	来期
自社業況の総合判断	▲26	▲9	▲12
（生産・売上高）	▲21	▲3	▲1
（材料仕入単価）	▲61	▲75	▲55
（採算（経常利益））	▲15	▲6	2
（従業員数（含パート））	▲33	▲33	▲31
（資金繰り）	▲33	▲10	▲10

	前期	今期	来期
建設業	小雨（▲14）	曇（12）	曇（6）
製造業	雨（▲47）	小雨（▲20）	小雨（▲13）
卸・小売業	雨（▲46）	小雨（▲20）	小雨（▲8）
サービス業	曇（9）	小雨（▲5）	雨（▲29）

凡　例

快晴	晴	曇	小雨	雨	大雨
特に好調	好調	まあまあ	やや不振	不振	きわめて不振

ＤＩ　50　25　0　▲25　▲50

■新型コロナウイルス「5 類」移行後の景況感

大幅に改善した	改善傾向にある	緩和前と変化なし	悪化傾向にある	大幅に悪化した
3%	35%	50%	10%	1%

令和 6 年 6 月の雇用情報

厚生労働省発表の有効求人倍率　資料：「職業安定業務統計」

- **全　国**が 1.23 倍（季節調整値）
- **京都府**が 1.18 倍（季節調整値）
- **ハローワーク綾部管内**が 1.27 倍

総務省発表の完全失業率　資料：「労働力調査」

- **全国**が 2.5%（季節調整値）
- **近畿**が 2.4%（原数値）
- **近畿の完全失業者数**は 27 万人